

# 2011年度 早稲田大学 文学部

## 日本史 解答例

### I 弥生時代の日本 <標準>

問1オ 問2ウ 問3墳丘墓 問4エ 問5イ 問6エ 問7ウ

問1・問6は難問。とりわけ問1は、ア・イ以外は見知らぬ遺跡ばかりで消去法も使えない。ここで精神的ダメージを受けてしまうと、続く正誤問題を冷静に解けなくなってしまう。4題ある正誤問題は、どれもよく考えれば正解できるものばかりであった。

### II 奈良・平安時代の橘氏 <易>

問1三千代 問2エ 問3オ 問4ア

問5淳仁(天皇) 問6イ 問7承和(の変) 問8ウ

問2のみやや難問。問3・問4・問5などを見ると、歴史事項を覚える際には「いつ」を同時にとらえる必要があることがよくわかるだろう。そのときの政権担当者や天皇が誰なのか、文化作品なら何文化に属するものかがわかっていなければならない。その習得方法と確認方法が確立しているだろうか。

### III 古代～中世の仏教 <標準>

問1浄土 問2オ 問3ア・オ

問4オ 問5ウ 問6天竜寺 問7林下

問2・問4が難問。どちらも一般の大学ではめったに問われない形での出題なので、これを間違えたことを後悔する必要はまったくない。一方で問3は、イ・ウ・エがどれも誤文として消去できるため解答しやすい。

### IV 江戸時代後期の政治・外交 <易>

問1ウ 問2無二念打払令 問3オ 問4蛮社の獄

問5三方領知(地)替 問6ウ 問7旧里帰農令 問8イ

早稲田では定番のテーマからの出題で、とりたてて難問はない。問3のような正誤問題を解くと、「渡辺崋山」一人をとってみても細かい知識がなければ解けないこ

とがよくわかるだろう。『慎機論』の作者なんて知識だけでは到底太刀打ちできない。

## V 満州事変後の軍部の台頭 <やや易>

問1ア 問2エ 問3オ 問4挙国一致 問5岡田啓介

問6ウ 問7国体明徴 問8オ 問9斎藤隆夫 問10西安

問1と問8がやや難しいか。どちらも通年授業では扱わないが、オプション講座や講習などで扱っている。問1などはまさにこの選択肢のままの板書をしているほど。そのレベルまで習得して早稲田を安全圏で合格してほしい。一方問4は、何を答えさせようとしているのかがわからなかった人がいるだろうか。しかし、早稲田大学ではすでに別の学部で2度も出題されたことのある「あるある問題」であった。

## VI 江戸時代の文化 <易>

問1ウ 問2明和 問3円山応挙

問4鈴木春信 問5ア 問6イ・オ

文学部では最後の大問は、文化史からの出題が定番。そして図版問題が毎年出されているが、今年は「婦女人相十品」という作品名が書いてあるので何の苦労もなく解けた。ノーヒントで図版を判別させることも多いので、文化史学習の際には必ず資料集(図説)を併用するべきである。

## 講評

簡単な問題と難しい問題の差が激しい印象を受けた。受験生は、それぞれの歴史事項の出題率の高低がわからないため、どの問題も同列にとらえて習得しがちだが、それでは効率が悪い。今後も出題される可能性が高い、すなわち出題率の高い内容に重きをおくべきである。やみくもな学習では用語集全暗記になりかねず、かといってやり遂げることなどできずに挫折するのがオチだ。